

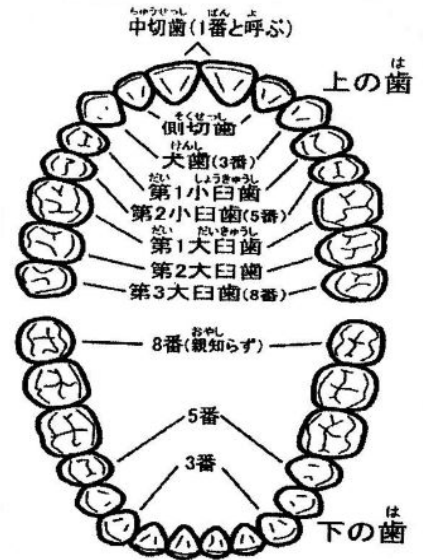


第91号
平成20年6月

子育て施設課
電話0823-25-3144

『生えてきたかな、大人の歯』

お子さんが小学生になろうとしている頃乳歯の下からはじめての大人の歯(永久歯)が生えてきます。それは下の前歯か、下の第一大臼歯(乳歯のうしろに生える奥歯)でしょう。なかでも大切なのは「六歳臼歯」とよばれる第一大臼歯です。第一大臼歯は、かむ力が一番強く、食べ物をかみ砕く大切な歯です。また上下の歯の正しいかみ合わせをつくっていく重要な歯で「咬合のかぎ」とも言われます。でも、もっともむし歯になりやすい歯でもあるのです。それだけに、しっかりブラッシングできているか確認しながら、大切に育てていきましょう。



永久歯の名前

●六歳臼歯(第一大臼歯)はどうしてむし歯になりやすいの?



第一大臼歯の生える位置が問題です。乳歯の一番奥に生えるので、子供にとって乳歯の奥に生え始めた背の低い第一大臼歯を上手にみがくことは、とてもむずかしいことです。次に生える途中では歯が咬み合っていないので、食物などでこすられる自浄作用が不十分なのです。それから歯の形です第一大臼歯は表面に小さな溝がたくさんあり、そこにプラークが溜まりやすくなります。さらに生え始めて成熟していくまでの永久歯は幼若永久歯といって歯の外側のエナメル質がまだ十分に固くなっていません。抵抗力が弱いこの永久歯は乳歯の歯質と似ていて、むし歯が始まると進行が速いのです。

したがって第一大臼歯が生えてきたら、一緒にブラッシングして、お互いにチェックしあうなどして、みがけているかを確認してください。

咬み合わせの面の溝や、歯と歯茎の境目の部分が、みがけていないケースが多いので注意してください。

●子どもたちの歯がすこやかに育つことは……

高齢化が進んでいるわが国では、高齢化になったとき、食物をしっかりかんでおいしく食べることが、その人の生活の質の豊かさに直接結びついていることが明らかになってきました。高齢になったときに、しっかりかむことができるためには胎児期から20歳頃までの成長期に、健康な歯、歯肉、顎の骨、顎の関節、咀嚼筋、などを育てておくことが大切です。

乳歯や口の中に生えて間もない幼若永久歯は歯の表面がむし歯菌の作り出す酸に対して、弱いため、大変むし歯になりやすいのですが、ちょっとした心がけで必ず予防できるものなのです。

そのちょっとした心がけとは、おやつを含めた食生活を規律あるものにする、歯を磨くとき歯のすみずみまで磨けていること、この2点に気をつけてそれを維持することです。第一大臼歯の生えてくる6歳頃までにこの2点を生活習慣として身につけさせることが大切です。



成長期に健康な歯とかみあわせを育てることは、

成長期の子どもたちに贈る大きな宝です。

